



第 58 期 中間報告書

2009年4月1日～2009年9月30日

Solution Provider

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当社の事業経営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期のわが国経済は、一部に回復の兆しが見られたものの、世界的な景気停滞、円高の進行などにより、先行き不透明な状況が続きました。

当社の主力事業分野であります自動車業界におきましても、自動車販売に対する販売奨励策などにより、回復の兆しが見えたものの、全体的には生産・販売は低水準のままであり、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況下、当社グループでは、体制のスリム化と、徹底したコスト削減に取り組むことで業績の確保と経営基盤の強化に努めてまいりました。しかし誠に遺憾ながら、売上高、利益ともに、前年同期の実績を下回る結果となりました。

下期におきましても、厳しい経営環境が続くものと予想されることから、引き続き緊急対策を進めるとともに、併せて将来の成長をにらんだ各種施策を実施してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



2009年12月

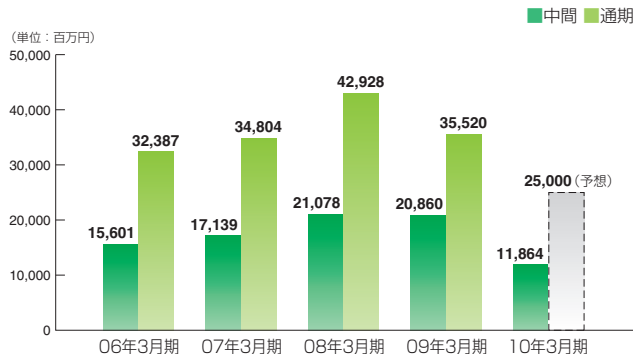
代表取締役社長 前川 富義

Contents

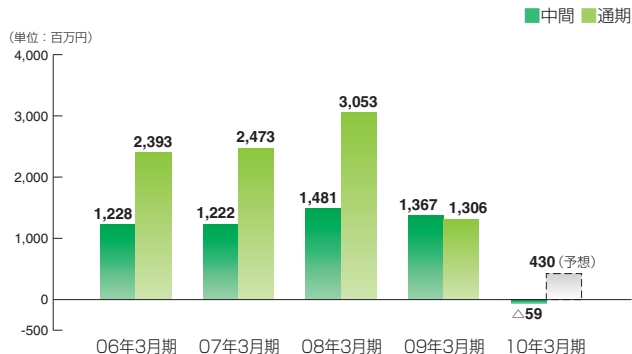
株主の皆様へ	1	連結財務諸表の要旨	7
連結財務ハイライト	2	株式の状況	9
社長メッセージ	3	会社概要	10
トピックス	5		

連結財務ハイライト

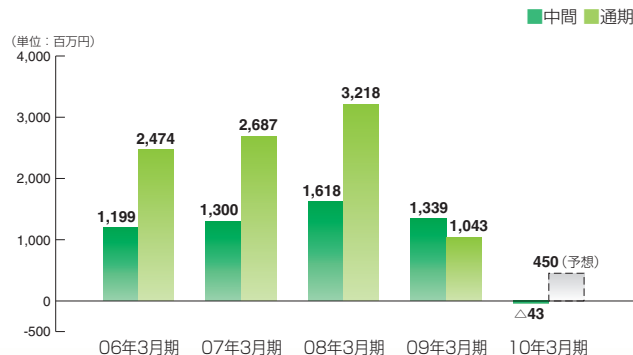
連結売上高



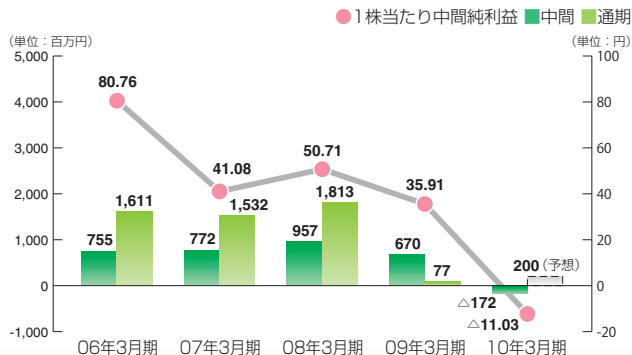
連結営業利益



連結経常利益

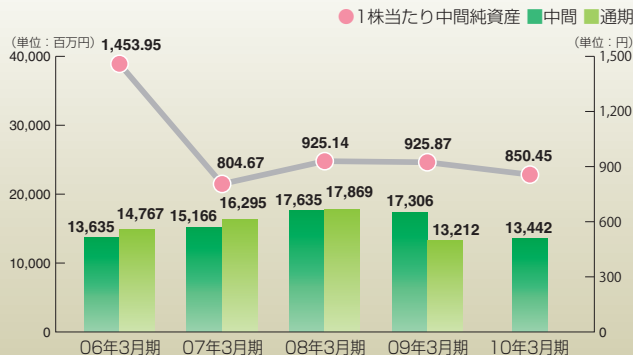


連結中間(当期)純利益・1株当たり中間純利益



2006年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割しております。

純資産・1株当たり中間純資産



2006年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割しております。

社長メッセージ

1. 中間期の業績

当中間期は、国内外の自動車市場の縮小から、連結の売上高は118億6千4百万円、営業損失5千9百万円、経常損失4千3百万円、中間純損失1億7千2百万円と、遺憾ながら昨年の中間期の実績を下回る結果となりました。

日系自動車メーカーの生産の減少や円高の影響などにより、国内外の関係会社の業績が低下したことが連結業績に大きく影響しました。

しかしながら、自動車市場が回復の傾向にあることや、現在、グループを挙げて取り組んでいる緊急対策の効果により、業績は最悪期を脱したと考えております。

2. 国別の状況

【日本】

自動車部品事業では、メーカーの生産・販売が減少したことから、売上高も低迷することとなりました。また、情報通信関連部品事業におきましても、国内外の携帯電話機市場の停滞から売上高は、前年同期の実績を大きく下回ることとなりました。

以上の結果、国内売上高は91億9千9百万円、営業利益は5千2百万円となりました。

【米国】

日系自動車メーカーの減産及び円高などの影響を受け、売上高は23,296千ドル、営業損失1,269千ドルと、いずれも前年同期の実績を大きく下回りました。

【タイ】

日系自動車メーカーの減産及び円高の影響を受け、売上高330百万バーツ、営業利益1百万バーツと、前年同期の実績を大きく下回りました。

【英国】

日系自動車メーカーの生産の一時休止や円高の影響を受け、売上高は2,314千ポンド、営業損失172千ポンドと、前年同期の実績を大きく下回りました。

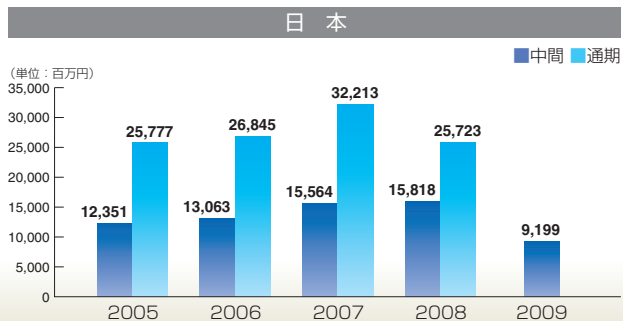
【中国】

自動車部品事業では、販売会社の大橋精密件(上海)、製造会社の大橋精密件製造(広州)ともに、順調に業績を拡大することができました。

一方で、携帯電話機用ヒンジの製造・販売子会社である大橋精密電子(上海)は、市場縮小により国内外メーカーの出荷台数が急減したことから、売上高も大きく減少しました。

以上の結果、中国での売上高は、69,869千元、営業利益は26千元となりました。

売上高推移





3. 通期の見通し

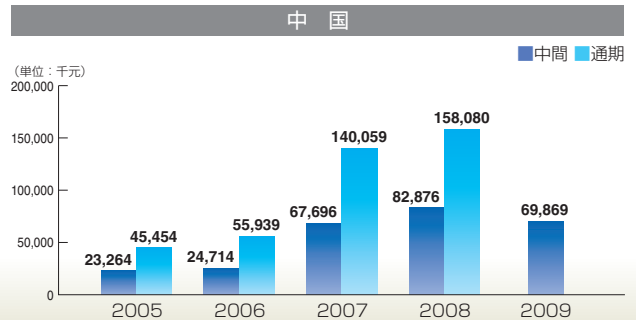
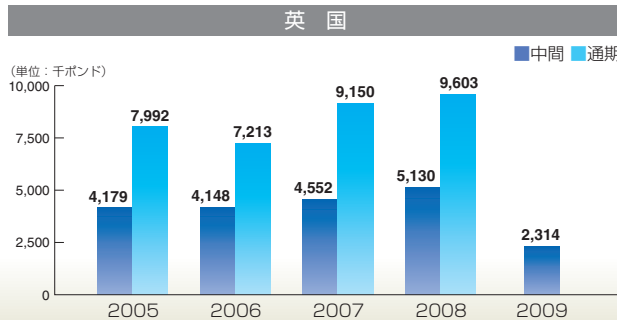
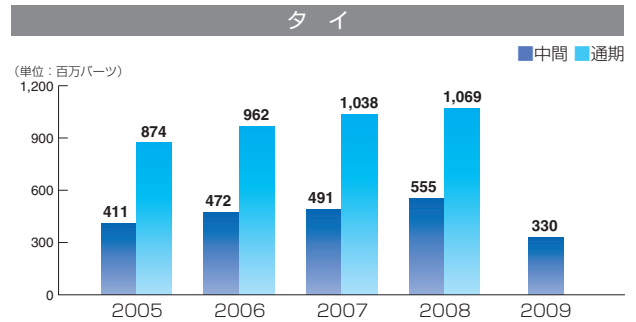
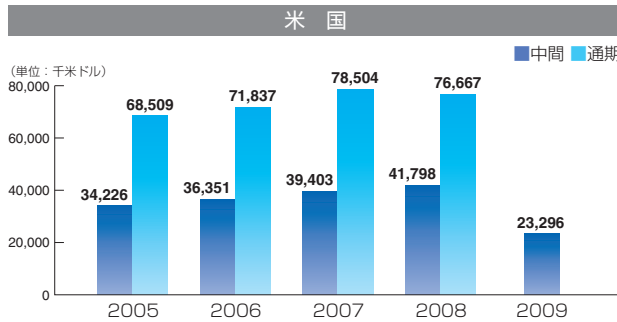
下期につきましては、自動車の販売予測、特に各国で実施されてきた販売奨励策の終了による販売落込みの懸念、為替の円高等、引き続き厳しい経営環境が続くことを予想しています。そのため、今後の業績の見通しにつきましても、慎重な姿勢を取らざるを得ません。

グループ全社を挙げて、引き続き緊急対策を継続するとともに、抜本的な構造改革を推し進めていきたいと考えています。

4. 成長に向けた取り組み

当中間期では、4月にオーハシ技研工業株式会社の仙台工場を設立、7月には、広島に新たな営業拠点を開設しました。さらに、10月からファスニング営業部をスタートいたしました。

厳しい経営環境下にはありますが、将来の事業拡大の布石については、着実に取り組んでいきたいと考えております。



トピックス

第58期中間期におきましては、組織体制のスリム化と業務の効率化を推進するとともに、事業基盤の拡充に取り組みました。4月以降11月までに実施した主な取り組みを紹介いたします。

2009年4月

オーハシ技研工業株式会社仙台工場を設立

連結子会社のオーハシ技研工業株式会社では、新たな加工技術領域の拡大を図る目的で、仙台工場を設立し、2009年4月1日より業務を開始いたしました。

新工場の設立により、オーハシグループの自社生産能力の拡充と収益性の増大を図ることで、グループの一層の発展を目指してまいります。



2009年7月

広島営業グループを開設

2009年7月1日より「広島営業グループ」が業務を開始いたしました。

新たに、中国地区、九州地区での自動車部品市場における売上拡大をねらいとしています。同地区の自動車メーカーとその関連会社、さらには新規事業分野も含めて積極的な営業活動に取り組んでまいります。

2009年10月

ファスニング営業部を開設

2009年10月1日より「ファスニング営業部」が業務を開始いたしました。

現在、ファスナー関連市場では、商品開発のスピード化、低コスト化、製品のさらなる機能の向上など、さまざまな要求が寄せられてきております。

「ファスニング営業部」では、オーハシグループのグローバルな体制を活かし、生産・調達・供給など国内外で、お客様のニーズに対するフレキシブルな対応力を武器に、営業活動を行ってまいります。



2009年11月

本社事務所を移転

当社グループでは、体制のスリム化と業務の効率化の推進に取り組んでおります。こうしたコスト削減の一環として、2009年11月24日より本社事務所を、自社ビルである虎ノ門・大橋ビルに移転することといたしました。

詳しい内容はホームページ(<http://www.ohashi.co.jp>)をご覧ください。

新本社事務所:

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル
TEL:03-5404-4411(代表)

連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2009年3月期 2009年3月31日現在	2010年3月期中間期 2009年9月30日現在
資産の部		
流動資産	14,231	14,923
固定資産	8,352	8,404
資産合計	22,584	23,327
負債の部		
流動負債	6,437	7,108
固定負債	2,933	2,776
負債合計	9,371	9,884
純資産の部		
株主資本	14,191	13,941
評価・換算差額等	▲1,125	▲651
新株予約権	3	3
少数株主持分	142	149
純資産合計	13,212	13,442
負債純資産合計	22,584	23,327

流動資産

前期末と比べて売上が増加に転じているため、手元資金が増加しており、前期末比6億9千2百万円の増加となりました。

固定資産

設備投資を3億3千3百万円行ったことにより、前期末比5千2百万円の増加となりました。

流動負債

前期末と比べて売上が増加に転じたことに伴う買掛金の増加などにより、前期末比6億7千1百万円の増加となりました。

純資産の部

株主資本は当中間期の配当により利益剰余金が減少したことなどにより、2億5千万円減少しました。評価・換算差額等は前期末の△11億2千5百万円から増加し、当中間期末は△6億5千1百万円となりました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2009年3月期中間期 自2008年4月1日 至2008年9月30日	2010年3月期中間期 自2009年4月1日 至2009年9月30日
売上高	20,860	11,864
売上原価	16,135	9,461
売上総利益	4,724	2,402
販売費及び一般管理費	3,357	2,461
営業利益	1,367	▲59
営業外収益	101	58
営業外費用	128	43
経常利益	1,339	▲43
特別利益	6	1
特別損失	70	39
税金等調整前当期純利益	1,274	▲81
法人税、住民税及び事業税	498	170
法人税等調整額	95	▲73
少数株主利益	10	▲5
当期純利益	670	▲172

営業利益・経常利益・中間純利益

売上減少による影響により、営業損失5千9百万円、経常損失4千3百万円、中間純損失1億7千2百万円を計上しましたが、体制のスリム化とコスト削減を中心とした緊急対策の効果により、業績は最悪期を脱したものと考えております。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、15億8千3百万円の資金の増加となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失8千1百万円を計上し、売上債権が8億9千2百万円増加しましたが、たな卸資産が11億9千6百万円減少し、仕入債務が4億4千万円増加したことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は3億3千3百万円となりました。これは主に、固定資産の取得3億3千3百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は2億1千5百万円となりました。これは主に、社債の償還1億2千万円、配当金の支払7千8百万円によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2009年3月期中間期 自2008年4月1日 至2008年9月30日	2010年3月期中間期 自2009年4月1日 至2009年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	851	1,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲524	▲333
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲523	▲215
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲113	50
現金及び現金同等物の増減額	▲309	1,084
現金及び現金同等物の期首残高	7,675	4,070
現金及び現金同等物の期末残高	7,365	5,154

株式の状況 (2009年9月30日現在)

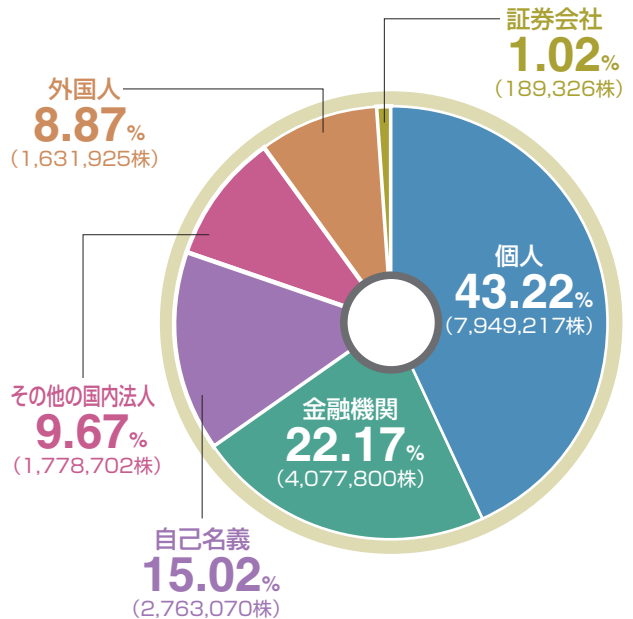
- 発行可能株式総数..... 64,000,000株
- 発行済株式総数..... 18,390,040株
- 資本金..... 18億2,567万円
- 株主数..... 5,556名

●大株主

	持株数	持株比率
イチゴアセットトラスト	1,393,200株	7.57%
オーハシテクニカ取引先持株会	766,700株	4.16%
古尾谷 健	761,720株	4.14%
株式会社みずほ銀行	729,200株	3.96%
日本生命保険相互会社	660,000株	3.58%
久保 好江	509,780株	2.77%
久保 雅嗣	509,780株	2.77%
阿部 泰三	502,600株	2.73%
株式会社みずほコーポレート銀行	419,000株	2.27%
日野自動車株式会社	400,000株	2.17%

(注)上記のほか、当社は自己株式2,763,070株を保有しております。

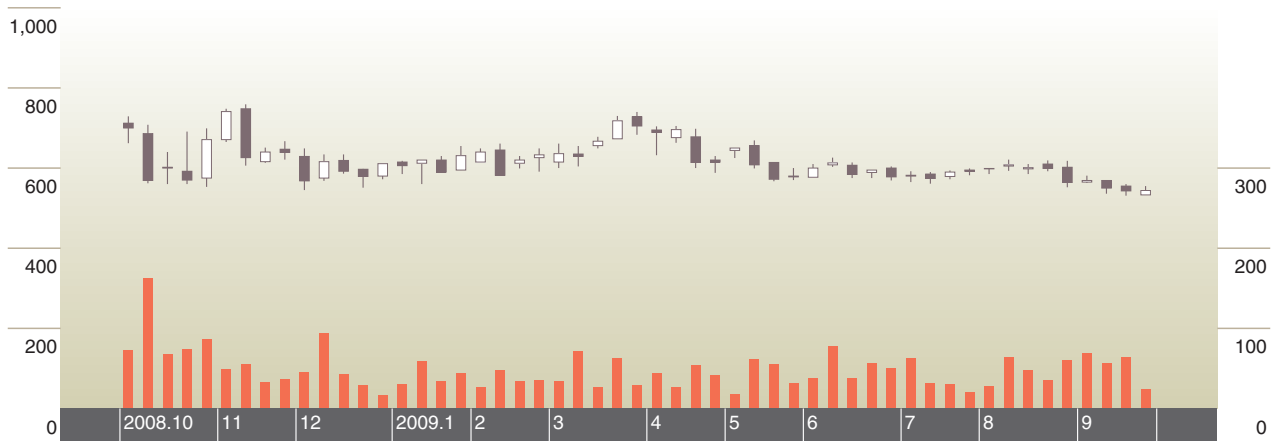
●所有者別株式分布状況



●株式チャート (2008年10月~2009年9月)

(株価：円)

(出来高：千株)

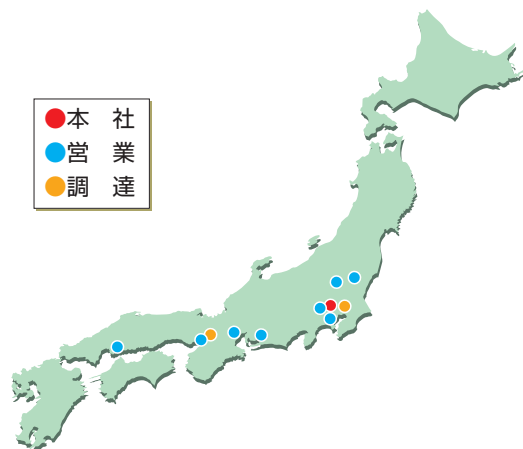


会社概要

(2009年11月24日現在)

社名	株式会社オーハシテクニカ OHASHI TECHNICA, INC.
本社	〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル
設立	1953年(昭和28年)3月
資本金	18億2,567万円
従業員数	グループ合計 994名
当社グループの 事業内容	①自動車、情報通信機器などに使用される 部品の企画・設計開発並びにその製 造・販売 ②部品の物流業務並びに輸出入業務

取締役及び監査役	代表取締役社長	前川 富義
	取締役	柴崎 衛
	取締役	久保田 忠
	取締役	菊地 孝一
	取締役	小林 正一郎
常勤監査役	青山 清治	
監査役	三好 徹	
監査役	田口 武尚	
執行役員	上席執行役員	堀内 郁夫
	上席執行役員	古性 雅人
	上席執行役員	田中 春次
	上席執行役員	黒澤 孝之
	執行役員	豊田 孝二
	執行役員	穂満 敏朗



国内事業ネットワーク

本社	東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル
営業部門	開発営業部 東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル
	栃木営業グループ 栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16 ルーセントビル5階
	北関東営業グループ 群馬県太田市西矢島581-6
	首都圏第一営業グループ 東京都国立市谷保3999-6
	首都圏第二営業グループ 東京都国立市谷保3999-6
	首都圏第三営業グループ 神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメゾンヤマキ2階
	首都圏第四営業グループ 神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメゾンヤマキ2階
	浜松営業グループ 静岡県浜松市篠ヶ瀬町502-1
	名古屋第一営業グループ 愛知県高浜市小池町2-15-10
	名古屋第二営業グループ 愛知県高浜市小池町2-15-10
	大阪営業グループ 大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階
	広島営業グループ 広島県広島市東区光町1-12-20 もみじ広島光町ビル6階
	ファスニング営業部 東京都国立市谷保3999-6
	情報通信営業部 東京都国立市谷保3999-6
調達部門	東日本調達部 東京都台東区上野5-15-14 御徒町CYビル8階
	西日本調達部 大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階
	調達技術部 東京都台東区上野5-15-14 御徒町CYビル8階

海外事業ネットワーク

北米	OHASHI TECHNICA U.S.A., INC. TENNESSEE BRANCH INDIANA SALES OFFICE OHASHI TECHNICA U.S.A., MANUFACTURING INC.
タイ	OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD. OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD. OHASHI S.I. (THAILAND) CO., LTD.
英国	OHASHI TECHNICA UK, LTD. NORTH BRANCH
中国	大橋精密電子(上海)有限公司 大橋精密件(上海)有限公司 広州分公司・武漢分公司 大橋精密件製造(広州)有限公司

国内関係会社

オーハシ技研工業株式会社	愛知県東海市南柴田町トの割266-21
仙台工場	宮城県仙台市泉区明道3-19
株式会社オーティーシーロジスティクス	東京都国立市谷保3999-6

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	
定時株主総会・期末配当 中間配当	毎年3月31日 毎年9月30日
株主名簿管理人 (特別口座管理機関)	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
	取次事務は中央三井信託銀行株式会社の 本店及び全国各支店並びに日本証券代行 株式会社の本店及び全国各支店で行って おります。
住所変更、単元未満株式の 買取のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出く ださい。 なお、証券会社に口座がないため特別口座 が開設されました株主様は、特別口座の口 座管理機関である中央三井信託銀行株式 会社にお申出ください。
未払配当金の支払について	株主名簿管理人である中央三井信託銀行 株式会社にお申出ください。
公告方法	下記ホームページに掲載いたします。 http://www.ohashi.co.jp

 **OHASHI**
OHASHI TECHNICA, INC.
株式会社オーハシテクニカ

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3丁目7番2号 大橋ビル
TEL. 03-5404-4411(代)

注)2009年11月24日より上記へ移転いたしました。

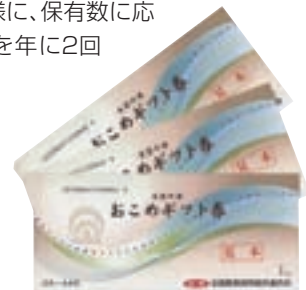
証券コード●7628

■ 株主優待 ■

当社では、株主の皆様にご感謝の意を示すとともに、長期的なご支援をいただけるよう、株主優待を実施しています。

100株以上保有の全株主様に、保有数に応じた枚数のおこめギフト券を年に2回お届けしています。

また、2008年からは長期保有優遇制度も導入いたしました。3年以上継続保有の株主様に対しては、さらにおこめギフト券を1枚(1kg)追加進呈いたしております。



～株主優待の内容～ おこめギフト券を進呈

100株以上	1枚(1kg)
1,000株以上	3枚(3kg)
10,000株以上	5枚(5kg)

※3年以上継続保有の株主様に対しては、さらに1枚を追加進呈いたしております

単元株式数	100株
割当基準日	3月末日・9月末日
優待回数	年2回

